

コンサルテーション事業報告

事業の名称	水曜教室	事業代表者	本郷 一夫
対 象	未就学児・就学児・保護者・教師（保育者）		
目的と内容	<p>①目的 広い意味での「社会性」の発達を目指している。ここでは、子どもたちの現在の生活や将来の生活を常に社会との関係で考え、その中で子どもたちが豊かに暮らしていくためには何が必要かということを保護者・子どもとともに探っていく。</p> <p>②内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達検査および行動観察 ・保護者支援 ・教師（保育者）への伝達 ・教師（保育者）の子どもへの関わり方の助言 		
実 施 日 および 実 施 回 数	<p>①実施日 第2、第4水曜日を基本とし、その他要望に合わせて対応する</p> <p>②実施回数または実施形態 実施概要に報告のとおり</p>		
実 施 場 所	学内実験室		
主なスタッフ	本郷一夫 本郷研究室指導生等 平川久美子（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程） 進藤 将敏（ ） 藤澤紗央里（東北大学大学院教育学研究科博士前期課程） 吉田 栄恵（ ） 米谷 和世（ ） 大淵 守正（東北大学教育学部4年） 津田 千鶴（修紅短期大学講師） 藤井 珠央（仙台市若林区保健福祉センター心理判定員）	人 数	9名
スタッフの 活 動 内 容	教員の指導の下、スタッフ全員で関わるもの ①実習オリエンテーション ②発達アセスメント ③子どもの対応 ④課題の考案および実施 ⑤支援に対する評価および報告書の作成 ⑥カンファレンスへの出席 博士後期課程のみが関わるもの ①インテイク ②保護者との面接		

水曜教室実施概要報告

本年度は定期的な相談活動は行わず、保育所からの紹介および問い合わせのあった6組について7回実施した。実施時間は2～3時間程度だった。水曜教室の実施概要を以下に示す。

月	ケース	来談者	保護者との面接内容	本児との かかわり
8	初回	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査 (新版 K 式) ・行動観察
11	再来	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査 (新版 K 式) ・行動観察
	初回	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 ・学校での対応に関する助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・知能検査 (WISC-□) ・行動観察
12	再来	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査 (新版 K 式) ・行動観察
	初回	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・知能検査 (WISC-□) ・行動観察
2	再来	本児 母親 保育者	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査 (新版 K 式) ・行動観察
	初回	本児 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の行動特徴や発達理解に関する助言 ・日常の接し方や今後の発達を促す対応についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・知能検査 (WISC-□) ・行動観察